

賑わい等の状況について

主なポイント

- 地価公示の平均価格の上昇率は、政令市の中で、商業地は16番目、住宅地は最下位。
【スライド44・45参照】
- 小売業の事業所数および年間商品販売額は、減少傾向。【スライド46参照】
- 世帯当たりの消費支出金額は、政令市の中で最下位。【スライド47参照】
- コロナ以前は、延べの観光客数は2,500万人前後、宿泊観光客数は190万人前後で推移。【スライド49・50参照】
- コロナ以前は、観光消費額は1,300~1,400億円程度で推移。
【スライド52参照】
- ホテル・旅館の施設数および客室数は、いずれも減少傾向。【スライド53参照】

41

昼間人口・夜間人口・昼夜間人口比率(R2年)

(政令市比較)

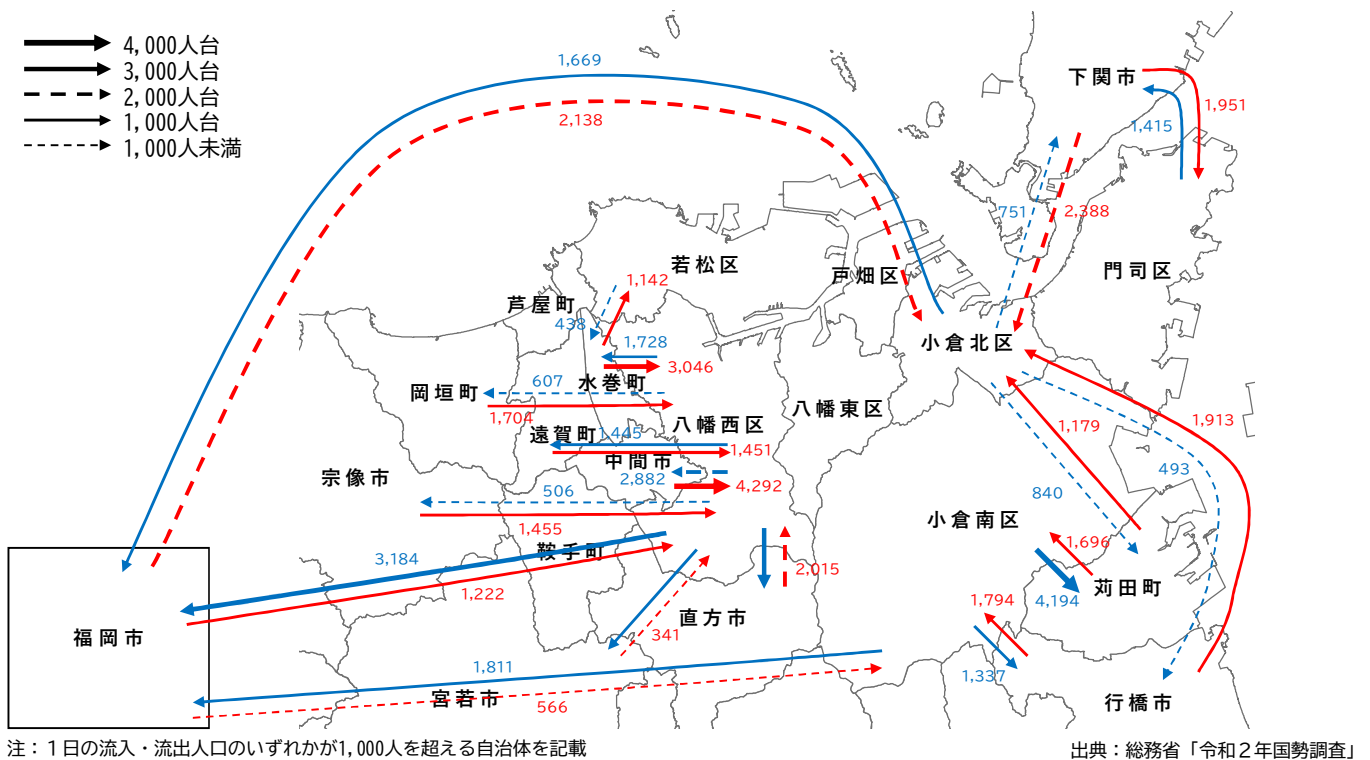


出典：総務省「令和2年国勢調査」

- ・北九州市は、通勤や通学などにより、昼間の人口が夜間の人口よりも多い。
- ・昼夜間人口比率は102.1で、政令市の中で、高い順から9番目となっている。

42

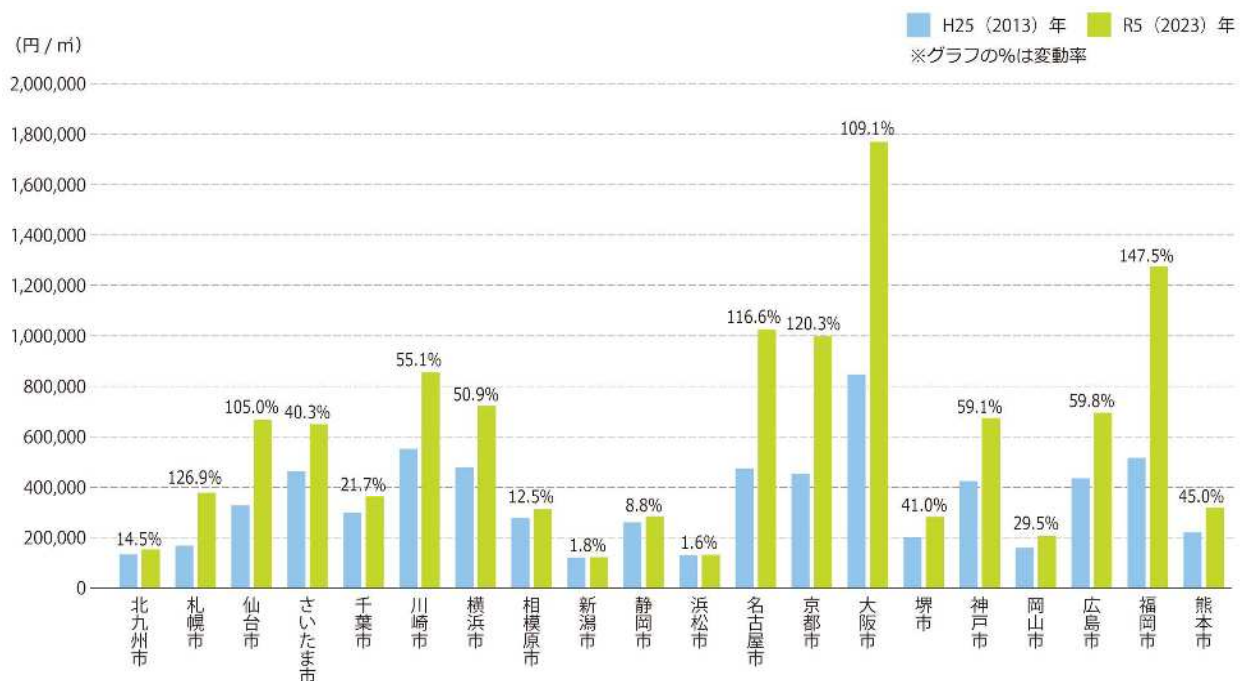
1日当たりの流入・流出人口(R2年)



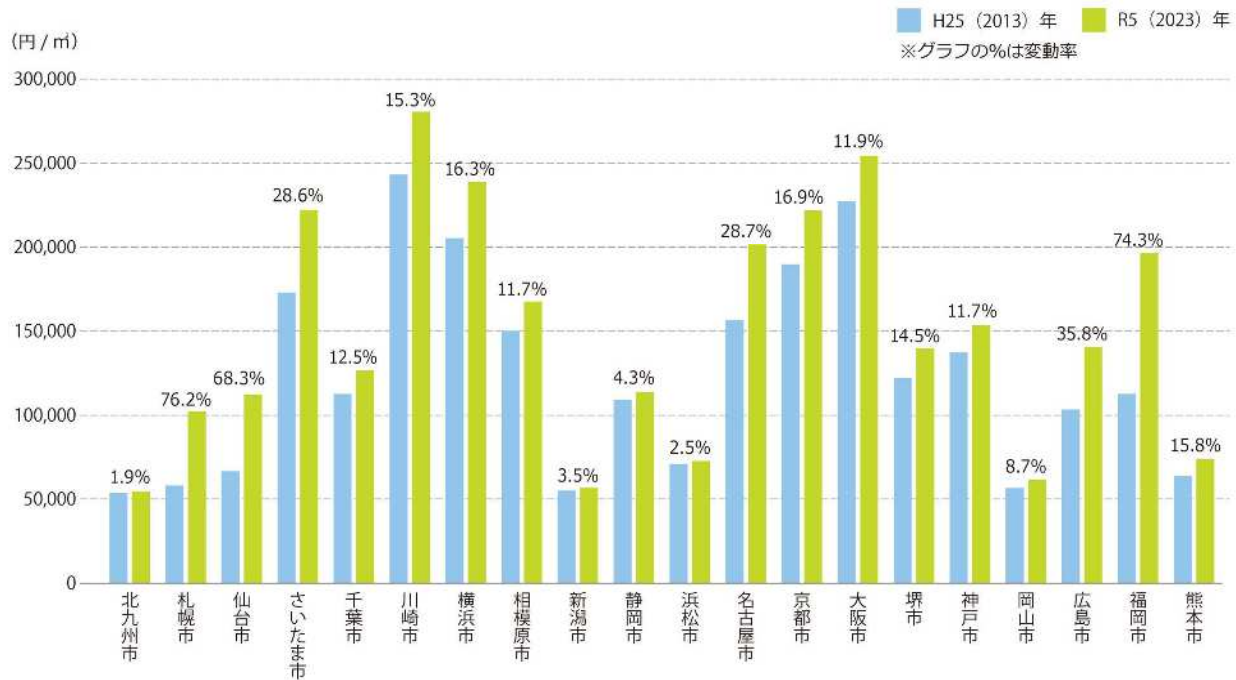
- ・福岡市に対しては、小倉北区への流入が多く、小倉南区や八幡西区からは流出が多い。
- ・下関市に対しては、小倉北区や門司区への流入が多い。
- ・苅田町に対しては、小倉北区への流入が多く、小倉南区からは流出が多い。

地価公示(商業地)の平均価格・変動率

(政令市比較)



- ・商業地における地価公示の平均価格の平成25年と令和5年の変動率は、政令市の中で16番目となっている。



出典：国土交通省「地価公示」

・住宅地における地価公示の平均価格の平成25年と令和5年の変動率は、政令市の中で最下位となっている。

北九州市の小売業の事業所、従業者、年間商品販売額の推移

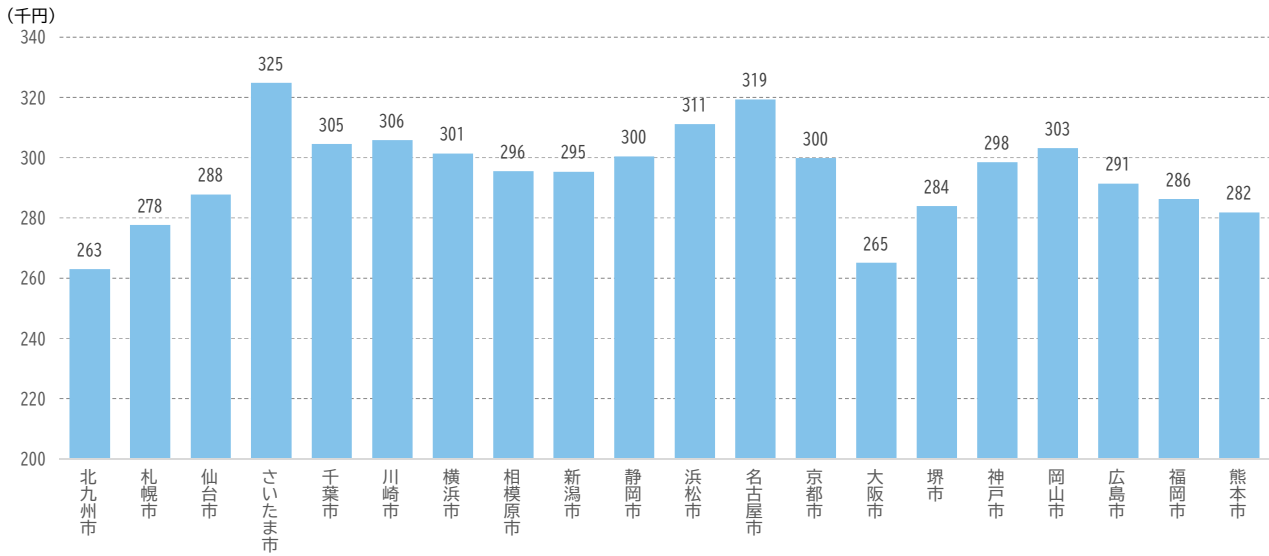


注：H19年以前とH26年以降の調査方法等は異なるため、単純な比較はできない。

年間商品販売額は、H19年以前は前年度の実績(H19年の場合、H18年4～翌3月)H26年以降は前年の実績(R3年の場合、R2年1～12月)。

出典：経済産業省「商業統計調査」(H19年まで)、総務省・経済産業省「経済センサス」(H26年から)

・小売業の事業所数、年間商品販売額は減少傾向にある。



注：2人以上の世帯を対象

出典：総務省「家計調査」

・世帯当たりの1か月間の消費支出金額は、政令市の中で最も低くなっている。

国際会議開催件数

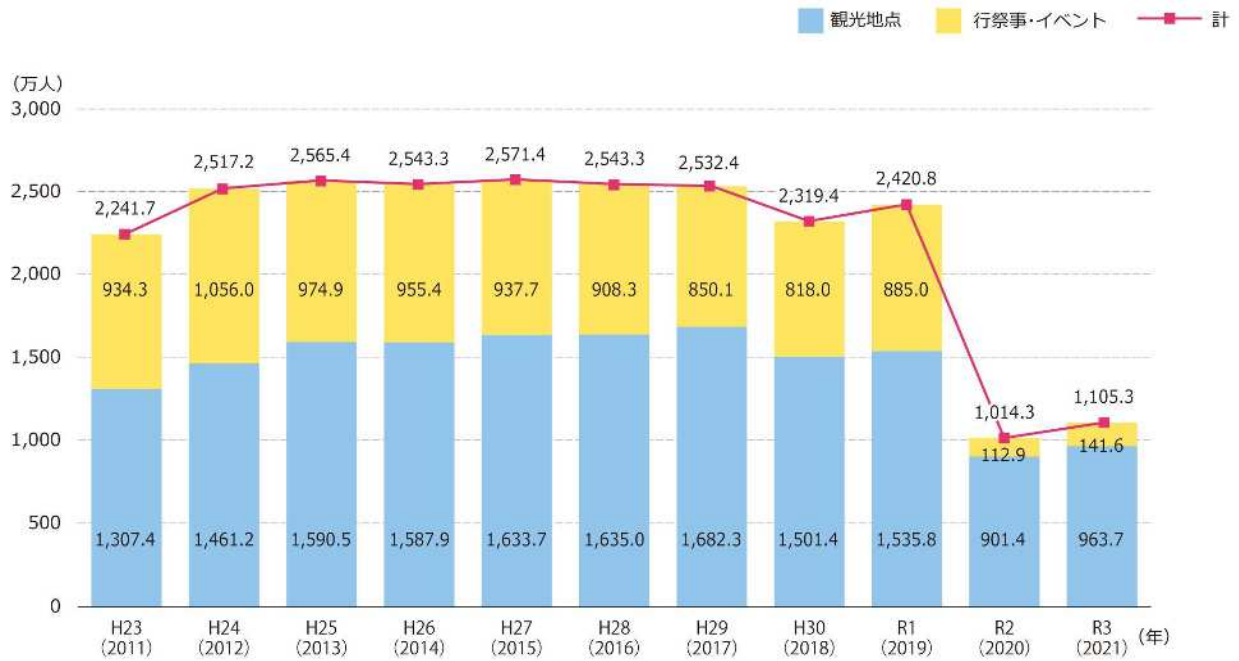
順位	H28 (2016) 年		H29 (2017) 年		H30 (2018) 年		R1 (2019) 年	
	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数	都市名	件数
1位	東京(23区)	574	東京(23区)	608	東京(23区)	645	東京(23区)	561
2位	福岡市	383	神戸市	405	神戸市	419	神戸市	448
3位	京都市	278	京都市	306	京都市	348	京都市	383
4位	神戸市	260	福岡市	296	福岡市	293	福岡市	313
5位	名古屋市	203	名古屋市	183	名古屋市	202	横浜市	277
6位	横浜市	189	横浜市	176	横浜市	156	名古屋市	252
7位	大阪市	180	大阪市	139	大阪市	152	大阪市	204
8位	仙台市	115	北九州市	134	北九州市	133	北九州市	150
9位	札幌市	115	仙台市	120	仙台市	116	仙台市	136
10位	北九州市	105	札幌市	116	札幌市	109	札幌市	102
11位	千里地区	85	千里地区	98	広島市	74	千里地区	84
12位	広島市	76	広島市	87	千里地区	68	広島市	72
13位	つくば地区	50	千葉市	57	千葉市	65	千葉市	56
14位	千葉市	43	つくば地区	47	つくば地区	42	つくば地区	54
15位	奈良市	39	金沢市 岡山市	35	奈良市	36	岡山市	43

注：千里地区とは、大阪府の豊中市、吹田市、茨木市、高槻市、箕面市エリアを指す。
つくば地区とは、茨城県のつくば市、土浦市エリアを指す。

出典：観光庁 政策について MICEの誘致・開催の推進

・国際会議の開催件数は増加傾向にあり、国内順位でも8位となっている。

観光客数(延べ人数)の推移

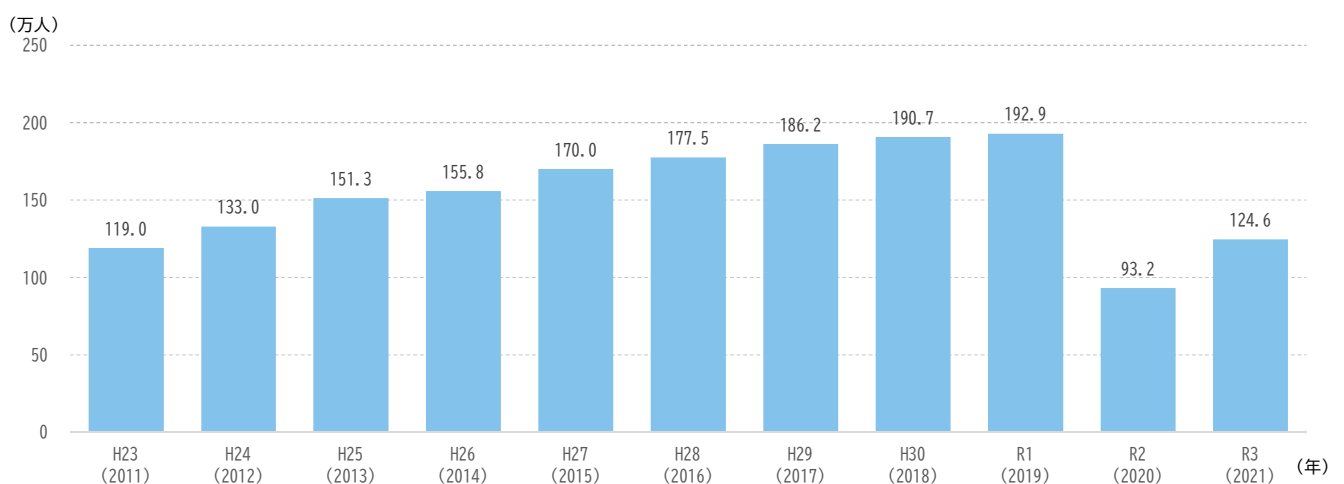


出典：北九州市観光動態調査

・観光客数は、令和2、3年は新型コロナの影響で減少したが、それ以前は2,500万人前後で推移している。

49

宿泊観光客数(実人数)の推移

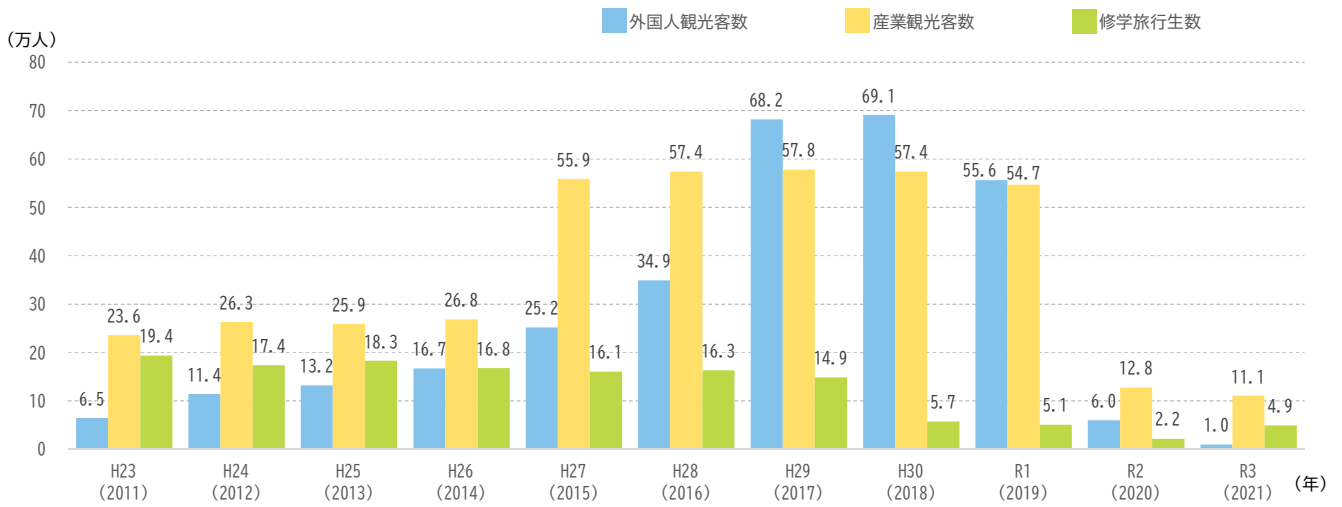


出典：北九州市観光動態調査

・宿泊観光客数は、新型コロナ以前は、190万人前後で推移している。

50

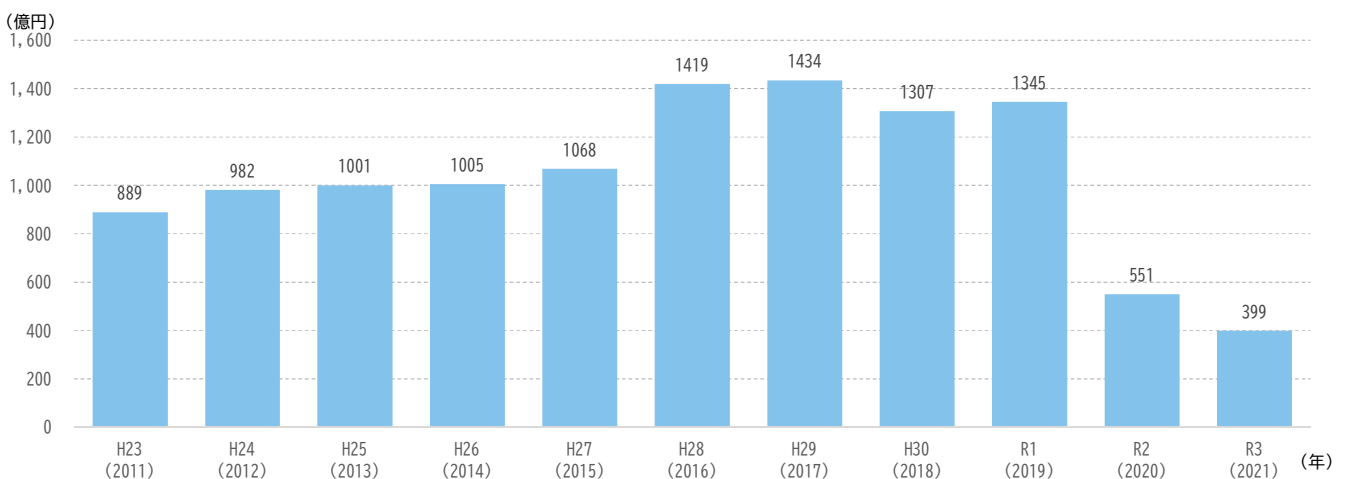
分野別観光客数の推移



出典：北九州市観光動態調査

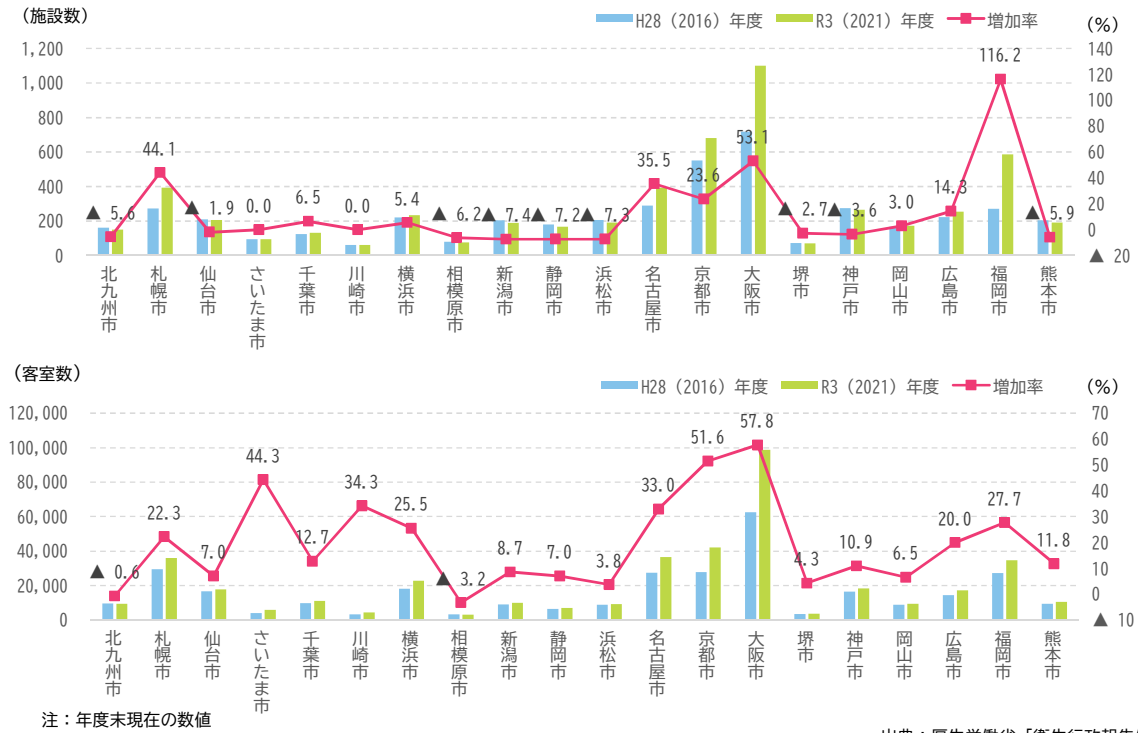
・外国人観光客数は、平成30年が69万1千人と過去最高となっている。

観光消費額の推移



出典：北九州市観光動態調査

・観光消費額は、新型コロナ以前は、年間1,300～1,400億円で推移している。



- ・平成28年度と比較して令和3年度は、ホテル・旅館の施設数および客室数のいずれも、減少している。
- ・一方で、福岡市は、施設数で大きな伸びとなっている。

北九州空港の利用状況の推移

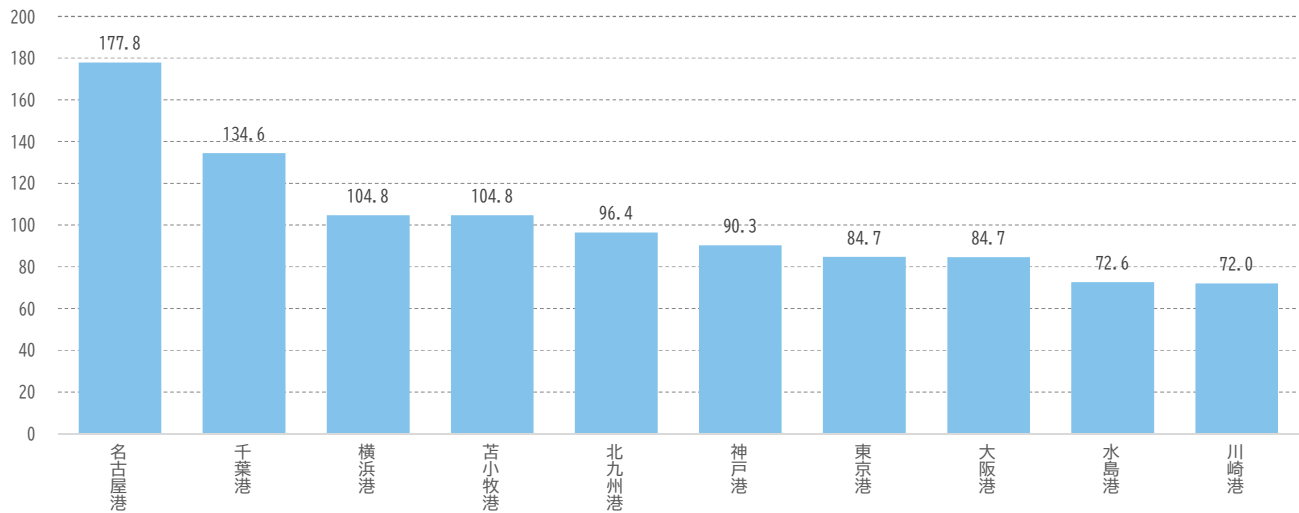
年度	実数			対前年比(%)		
	航空機 発着回数(便)	利用者数 (人)	貨物取扱量 (トン)	航空機 発着回数(便)	利用者数 (人)	貨物取扱量 (トン)
H26(2014)	8,665	1,259,879	14,845	—	—	—
H27(2015)	8,705	1,317,542	6,803	0.5	4.6	▲ 54.2
H28(2016)	8,850	1,411,657	8,451	1.7	7.1	24.2
H29(2017)	9,347	1,654,147	4,879	5.6	17.2	▲ 42.3
H30(2018)	10,179	1,793,357	8,752	8.9	8.4	79.4
R1(2019)	9,531	1,601,187	8,970	▲ 6.4	▲ 10.7	2.5
R2(2020)	5,023	326,745	15,362	▲ 47.3	▲ 79.6	71.3
R3(2021)	6,645	489,939	21,791	32.3	49.9	41.9

出典：国土交通省「空港管理状況調査」

- ・北九州空港の利用者数は、令和2、3年度は新型コロナの影響で減少したが、貨物取扱量は増加傾向にある。

取扱貨物量の全国順位(R3年)

(百万トン)



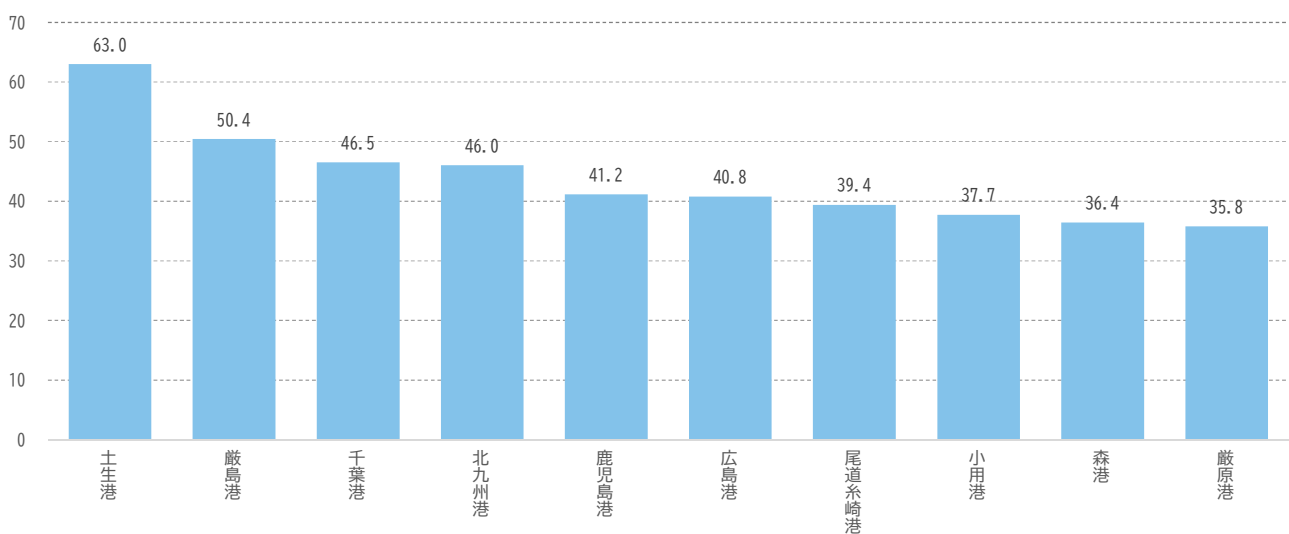
出典：国土交通省「令和3年港湾統計」

・北九州港の取扱貨物量は、全国で5番目となっている。

55

入港船舶隻数の全国順位(R3年)

(千隻)



出典：国土交通省「令和3年港湾統計」

・北九州港の入港船舶隻数は、全国で4番目となっている。

56

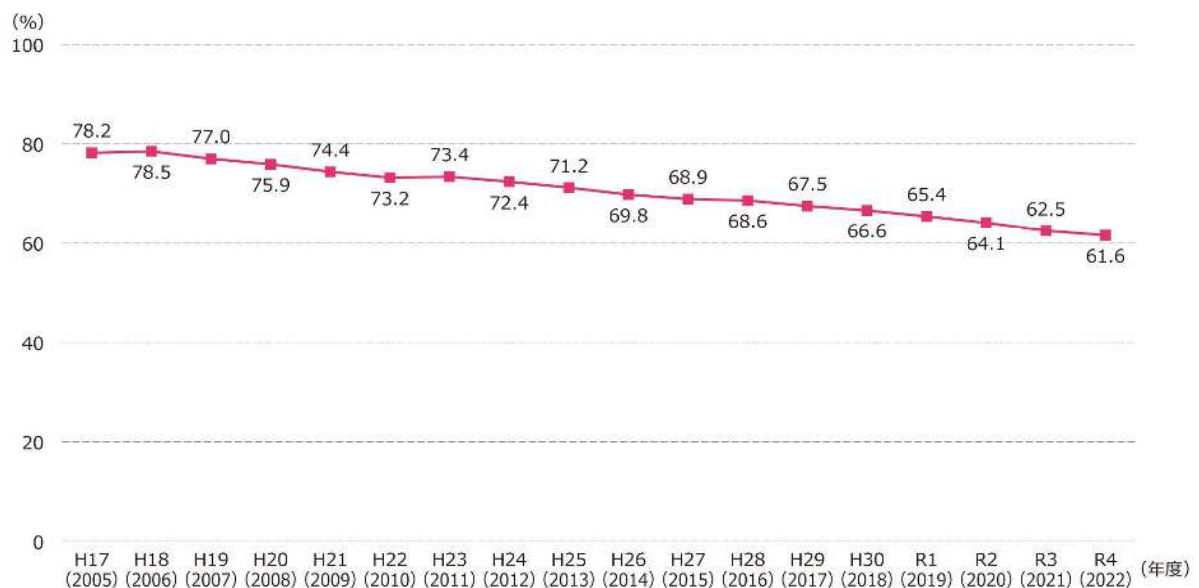
安全・安心の状況について

主なポイント

- 自治組織加入率は、減少傾向。【スライド58参照】
- 刑法犯罪認知件数は、減少傾向。人口千人当たりの認知件数は、政令市の中で7番目。【スライド59・60参照】

57

自治組織加入率の推移



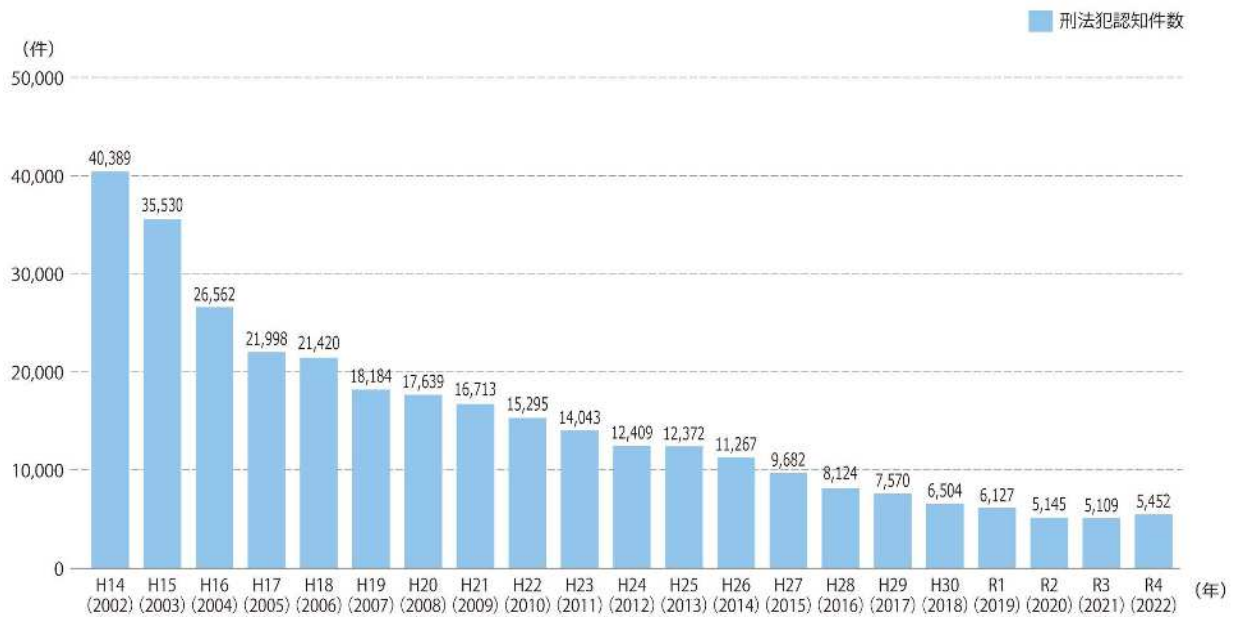
注：各年度4月1日現在

出典：北九州市

・自治組織加入率は、減少傾向にあり、令和4年度は61.6%となっている。

58

北九州市における刑法犯認知件数の推移

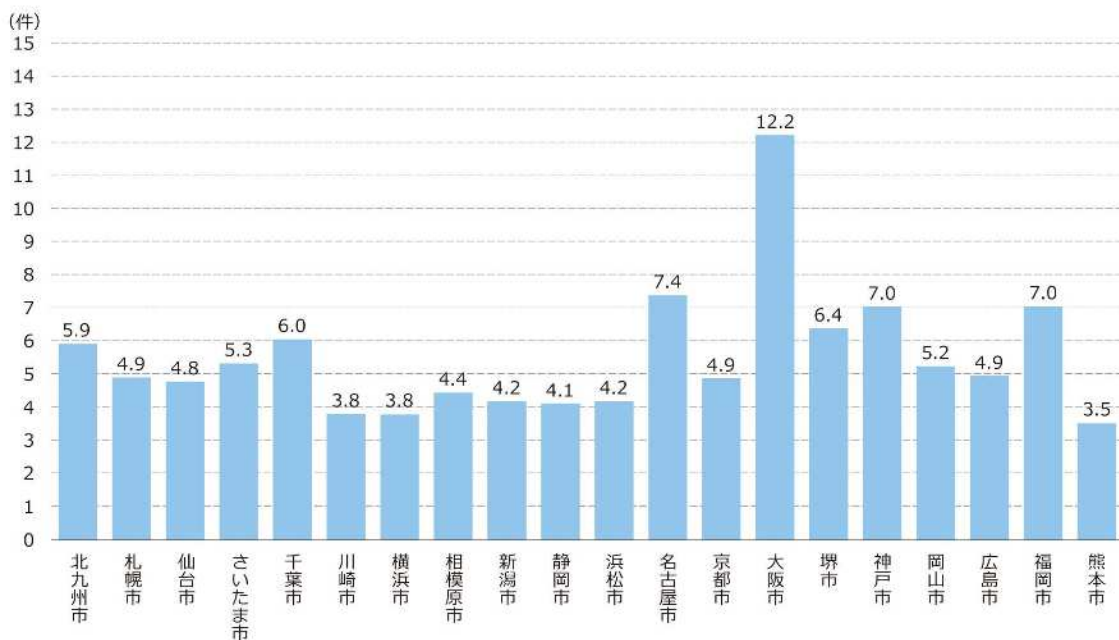


出典：北九州市

・刑法犯認知件数は、減少傾向にあり、平成14年と比較して約7分の1となっている。

人口1,000人当たり刑法犯認知件数(R4年)

(政令市比較)



出典：北九州市

・人口1,000人当たりの刑法犯認知件数は、政令市の中で、高い順から7番目となっている。